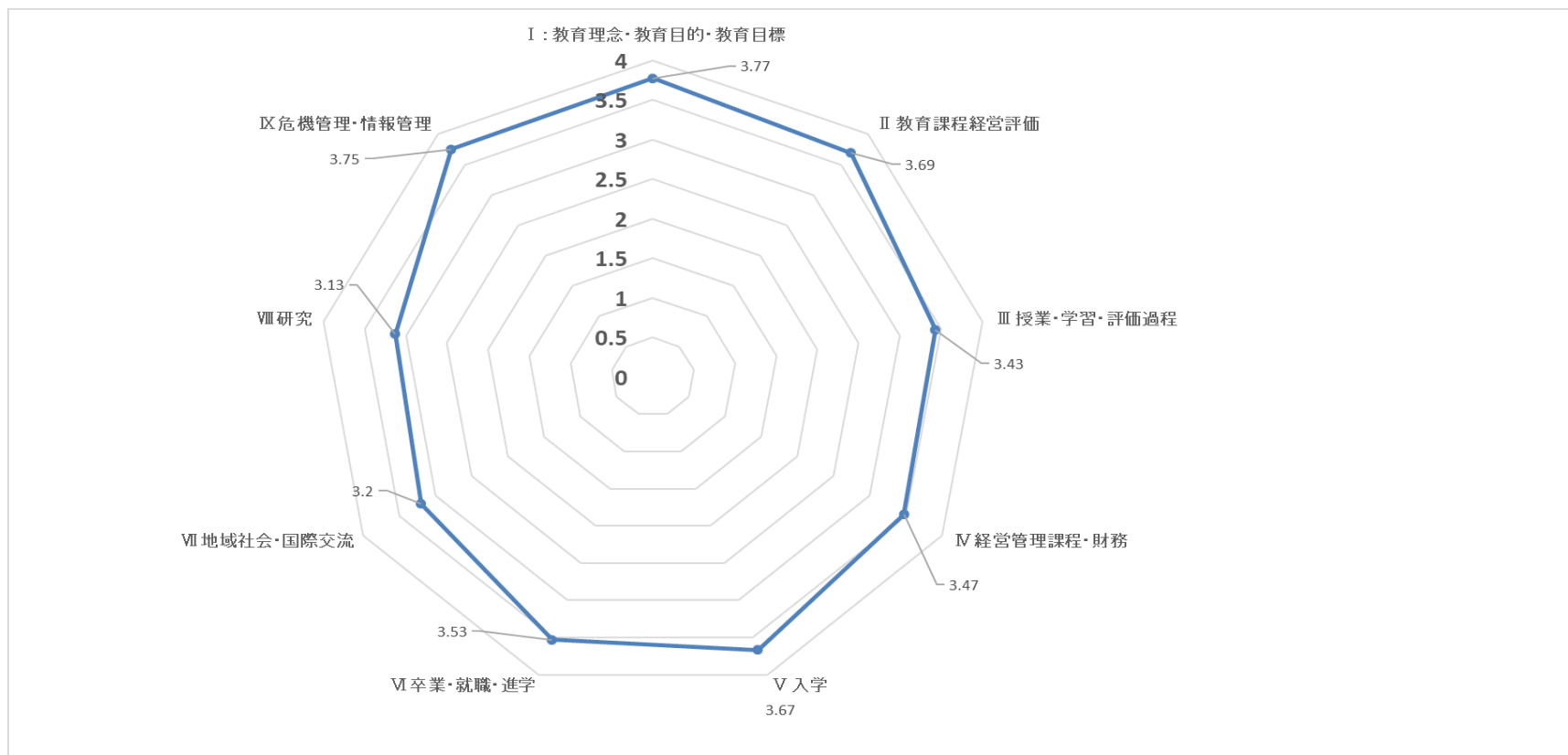


平成 29 年度学校評価報告書

聖マリアンナ医科大学看護専門学校

平成29年度 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 自己点検自己評価レーダーチャート

	I 教育理念 教育目的 教育目標	II 教育課程 経営評価	III 授業 学習 評価過程	IV 経営管理課 程 財務	V 入学	VI 卒業 就職 進学	VII 地域社会 国際交流	VIII 研究	IX 危機管理 情報管理	総平均
大項目平均点	3.77	3.69	3.43	3.47	3.67	3.53	3.2	3.13	3.75	3.52



聖マリアンナ医科大学看護専門学校

平成29年度 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 自己点検・自己評価結果

評価尺度
 4点：よく当てはまる
 3点：当てはまる
 2点：あまり当てはまらない
 1点：当てはまらない

大項目	項目	評価項目	平点評価数値	大項目平均	対策
I 教育理念・教育目的・教育目標	1	教育理念・教育目的・目標は法との整合性があり当校の特徴を表現している	3.8	3.77	
	2	教育理念・教育目的は学生の学習活動の指針となっている	3.8		
	3	教育理念・教育目的・教育目標は一貫性があり看護の専門性について明示している	3.9		
	4	教育目標は目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実践可能な目標になっている	3.6		
II 教育課程	5	教育課程編成は、教育理念・教育目的と一貫性がある	3.8	3.69	
	6	教育課程は体系的に編成されている	3.8		
	7	科目と単元の構成に当たって、明確な考えと根拠があり、その考えは教育理念・教育目標との整合性がある	3.6		
	8	単位履修の方法とその制約が教員、学生双方がわかるように明示している	3.7		カリキュラム委員会で順次検討する
	9	単位・卒業認定の基準は明確になっている	3.7		
	10	他の教育機関との単位互換が可能な体制を整えている	3.6		
	11	教育課程の評価体系が整えられている	3.8		
	12	評価結果が教育課程全体へフィードバックできるシステムがあり、機能している	3.5		次年度から授業評価の結果の返却を前期・後期に分けて実施する。また臨地実習評価を個人が見れるようにする
III 教育・学習・評価課程	13	教員が専門性を発揮できるように教員の担当科目と時間数を配分している	3.1	3.43	係・会議を減らす、または統合する。担当する係や業務の重なりを確認し減らす
	14	教員が授業準備のための時間を取る体制を整えている	2.4		①授業の重なりをなるべく少なくする②実習と授業と業務の重なりを年間で検討する③実習担当者が増員を目指す④臨地実習の現状と課題を明確にする(教員は常に臨地にいるべき・カンファレンスに出ない病棟等)⇒臨地実習における教員・指導者間の役割に伴う課題を明らかにする
	15	教員の相互研鑽を保持する体制がある	3.3		教務運営会議で検討中
	16	実習目的・実習目標に沿った実習施設の選択や開拓を行っている	3.3		
	17	実習目標達成のために実習施設との協力体制を整備している	3.4		学校看護部連絡会で検討中
	18	学生が受け持つ対象者の権利を尊重している	4		
	19	学生に対する安全教育を計画的に行っている	3.6		結果の分析が必要。学校としての安全教育の狙い、内容、方法を明確にし、段階を示してもらおう。実習要領(シラバス)等に挙げてもらおう
	20	学生に対する安全対策を講じている	3.9		
	21	授業は、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し実践している	3.4		
	22	効果的な教授のために単元内容の情報共有を実践している	3.3		
	23	評価計画を立案し、実施している	3.9		
	24	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	3.5		次年度から授業評価を前期後期に分けて返却し、臨地実習も担当者が個々見れるようにし、その結果を活用し授業のみなおしに生かす
	25	シラバスには一貫性があり、指導されている内容は学習への動機づけと支援になっている	3.5		
IV 経営管理課程・財務	26	将来構想を実現するための計画を明示し、周知している	3.3	3.47	周知徹底する
	27	教育目標の達成状況を多面的に把握している	3.6		
	28	国家試験対策が明確であり、組織的・計画的に取り組んでいる	3.4		3か年を通しての当校の学習支援について統一した指導方法について検討
	29	学校の組織図、会議、係り等の役割について明示している	3.5		明示を確実に行う
	30	教職員・講師の任用・配置に関しては、教育理念・教育目標達成との整合性がある	3.3		
	31	人事給与に関する規定等が明示されている	3.6		
	32	教職員・講師の資質向上のための考え方や対策を明示している	3.2		
	33	教職員の倫理に関する規定を明示している	3.6		
	34	教職員の福利厚生に関する規定を明示している	3.4		
	35	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っている	3.4		節電を全員で意識して行う(どこが節電できるか明確にし、教職員全員で徹底する)
	36	教育目的達成の為に施設・設備、教材を整備し、活用している	3.4		
	37	学生が休憩、親睦、交流等を行えるスペースがある	3.4		学習環境の整備について(学習室の使用法、備品の整備等)教務運営会議に評価委員会より提案する。
	38	学生の心身両面での健康管理体制を整えている	3.7		

	39	学生の学修支援体制を整えている	3.5		
	40	学生生活、進学、就職に関して学生の相談に応じている	3.8		
	41	教育・学習活動に関して、保護者等への情報提供を行っている	3.4		
	42	学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に公表している	3.6		平成29年度検討済み。平成30年度から実施予定
	43	自己点検、自己評価の意味と目的・方法を明示している	3.4		次年度から実施できるよう、具体的な方法を検討する
V 入学	44	入学者選抜は教育理念・目的を反映させた方法で実施している	3.7	3.67	
	45	入学者状況、入学者の推移について分析し、検証している	3.5		
	46	組織的、計画的に応募確保に取り組んでいる	3.8		
VI 卒業・就職・進学	47	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に実施している	3.6	3.53	
	48	卒業時の到達状況、就職・進学状況についての分析結果を教育実践に反映させている	3.6		①ポートフォリオの活用②ICT化の促進
	49	関連病院・施設における卒業生の状況を把握し、教育実践に繋げている	3.4		卒業時だけでなく、卒業後数か月での実践能力を評価し、在学中にどんな支援を受けられれば良かったなどを教育実践に活かしたい。
VII 地域 交流 社会 / 国	50	地域のニーズを把握し、社会への貢献を組織的に行っている	2.9	3.2	①オープンホスピタルへの参加⇒他大学の実施している活動②看護フェスティバル③メディカルキッズなどへの参加④文化祭⇒一般公開は継続、内容として町の保健室のようなことも考えてみる⑤川崎市の進路説明会等学校が要請を受けて教員が行う活動等
	51	国際的視野を広げるための授業科目・システムを整えている	3.5		
VIII 研究	52	教員の研究活動を保証している	2.7	3.13	①文献検索のしやすさ⇒次年度からメディカルオンライン開始②研究推進委員の活動⇒教員研修③研究アドバイザーの活用⇒連絡協議会等のアドバイザー活用④研究費の活用⇒研究費の活用方法をマニュアルに入れる⑤研究日の有効活用⑥研究活動について要望を確認する⇒時間と財源の活用について要望を聞く
	53	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	3.5		①神奈川県看護師等連絡協議会加盟している大学講師のアドバイザー依頼②当校独自で研究指導アドバイザーを依頼する
	54	研究活動の成果を発表している	3.2		紀要の見直しを行う。研究推進などで検討し、内容や、教員の義務の有無等ルールづくりを行う
IX 危機 管理 ・ 情報 管理	55	災害対策が整っている	3.7	3.75	災害対策の担当に評価委員会より提案する
	56	学校安全対策が整っている	3.7		
	57	感染症発生時の対応策が整っている	3.9		評価委員会より保健担当者へ提案する
	58	情報管理の体制が整っている	3.7		
	59	建物管理を定期的に行っている	3.7		
	60	緊急連絡網を整備している	3.8		

<平成29年度変更事項>

- 1、大項目IV経営管理課程に財務を追加し、評価の視点を見直す。
- 2、大項目IXとして危機管理・情報管理を追加する。
- 3、評価項目は91項目から60項目に精練する。

<総評>

- 1、4点(よく当てはまる)・3点(当てはまる)は昨年度92.5%であったが、今年は項目を精選し(91項目から60項目)しているため一概には言えないが、4点と3点は95%と全体に高い傾向であった。
- 2、1点の評価はなく、2点台は60項目中3項目のみであった。
- 3、評価項目14「教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている」が最も低く2.4点であった。対策として、授業の重なりを少なくする、実習との重なりを年間で調整する等検討する。
- 4、評価項目50「地域のニーズを把握し、社会への貢献を組織的に行っている」は2.9点であり、これに対しては、現行の様々な学校としての取り組みの中で社会貢献という意識を高く持ち取り組む。
- 5、評価項目52番「教員の研究活動を保障する」について2.7であり、文献検索をしやすくする、アドバイザーが活用しやすい環境をつくる、研究費について有効活用できるよう検討する。
- 6、大項目「IX危機管理・情報管理」については評価項目すべてが3.7以上であり、この項目に対するシステムがすでに学校として整っており、教員の危機管理・情報管理に関する意識が高く、徹底した実践がなされていることが伺える。
- 7、昨年までと同一項目で3点を切っていた大項目VIII研究も3.13という結果であり、系の活動や教員研修など学校全体で研究に取り組んでいたことが結果の上昇につながったものとする。